

Book Review

Dawson Functional Occlusion

ファンクショナル・オクルージョン

Peter E. Dawson 著
小出 馨 監訳

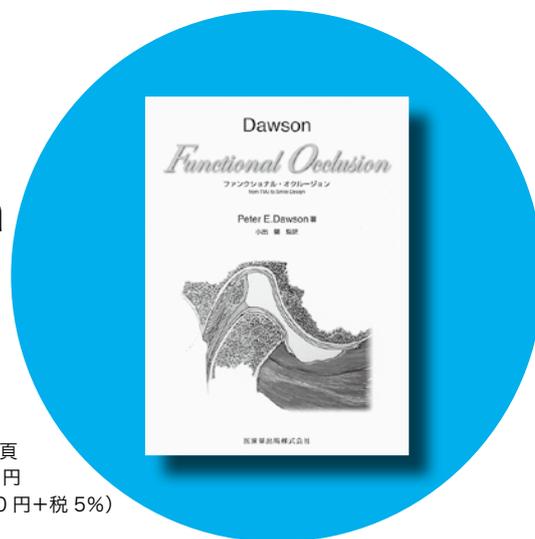
● ● ●

Reviewer

本多正明

(大阪府・本多歯科医院)

A4判, 560頁
定価 29,400円
(本体 28,000円+税 5%)
医歯薬出版刊



近年、歯科臨床において、インプラント治療や審美修復など、補綴分野が大きく脚光を浴び、また、“Longevity”を得るために、予知性のある診断治療計画が強調されている。日常臨床では、大多数が修復治療を必要としている。しかし、残念ながら、その治療のほとんどが修復治療の再介入にあてられている。

修復治療を成功させるためには、初めての治療であろうと、再介入であろうと、修復治療の要は“炎症と力のコントロール”である。最近は特に、力のコントロールの重要性が見直されるようになってきた。この力のコントロールとは、“咬合安定”と“構造力学的安定”を得ることと考える。この意味を十分に理解し、日常臨床を実践するうえで、今回出版された Peter E. Dawson 著、小出 馨監訳の『Functional Occlusion』は、咬合に関する幅広い情報が得られ、大きな助けになると思われる。

内容的には、大きく「Part I 機能的調和」「Part II 機能障害」「Part III

治療」の3つに分けられている。この本の特筆すべきことは、Chapterごとに Principle として、短い文章で、基本的な考え方が書かれている。この文章は、臨床医として心に置いておく必要がある。

Part I では、咬合の基礎的なことを、日常臨床と結びつけながら整理されている。「4章 咬合の決定要素」は、咬合を理解するうえでキーとなる章であろう。また、6章から22章までは、患者ごとに疑問が出たとき、必要な章を見れば、何らかのヒントが得られるように書かれている。とりわけ12章の Dawson の分類が、私としては、非常に臨床的で治療計画の立案に役立つと思われる。

Part II では、機能障害の項目としてまとめられている。TMD の鑑別診断に始まり、筋障害、顎関節内障・分類や画像検査が整理されている。特に、「28章 ブラキシズム」については、日頃から考えておくべきことが書かれている。

最後の Part III では、現実的な治療

面でより詳しく、そして理解しやすくするために、各章をさらに臨床的な観点から、より細かく分け、丁寧に解説されている。特に、「35章 咬耗への対応」は、臨床的に非常に参考になるであろう。36章から44章までは、歯の位置の重要性について、矯正治療との兼ね合いなどからまとめられており、大いに参考になる。また、43章は、重度の上下顎歯列弓の不正関係の問題解決として、外科矯正について述べられており、矯正専門書以外では、めったに見ることはできないであろう。そして、「第47章 咬合治療を成功させるための基準」は、序文のなかで、早く読むことを薦めるとあり、このことが、この本が多くの先生方の歯科臨床に役立つであろうと確信できるゆえんである。

最後に、この素晴らしい成書を監訳された小出 馨先生の熱意と努力、そして訳に携われた先生方に感謝するとともに、多くの GP、補綴専門医はもちろん、矯正専門医にも読んでほしい1冊である。